

はくあい

H A K U A I

発行所:博愛社/〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3丁目1-72/TEL06-6301-0367 FAX06-6301-5347
ホームページアドレス <https://hakuaisha-welfare.net>

水害訓練 ～南海トラフ大地震に備えて～ 【児童養護】



屋上へ避難

いつ起こるか分からない「南海トラフ大地震」に備え、大地震で津波が発生した場合を想定した避難訓練を6/21に行いました。もし大地震で津波が発生した場合、淀川区では3～5mの津波がくると想定されており、4階以上の建物への避難が求められます。

今回の訓練では、津波が到達するまでの間に、アクションカードを見ながら避難用荷物を各自で用意し、屋上へ避難、その後、非常食の牛丼を避難部屋で食べる体験を行いました。電気・ガス・水道が止まった場合、どのような生活になるのか、子ども達と職員が体験し、生活の不便さを身に染みて感じる時間となりました。この訓練を通し、備えをしっかりと行っていこうと思います。

【副主任 中矢可奈子】

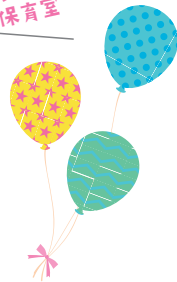
新保育園 Open! ②

博愛社クローバー保育園
2026年4月 田川2丁目に開園
今日はどこで遊ぶかな。
お部屋がいいかな。テラスもいいな。

パート職員(資格不問)募集中
お問い合わせは…博愛社こども園
☎06-6302-3405(オオツカ)

【博愛社こども園】

ワクワク、キラキラの保育室



いっぱい泳ぐぞ～!

より夜更かしを
宿舎ではいつも
しいご飯を食べ、
きました。美味
楽しむことがで
等、思いつきり
ビーチフラッグ
ビーチボールや
ことはもちろん



紅葉ホームは幼児から高校生まで幅広い年代の男の子6名が生活している賑やかなホームです。夏の宿泊行事を毎年楽しみにしており、行先については子ども達と職員が一緒になって何度も話し合いを重ねて淡路島に決まりました。初日は海水浴場へ行き、我先にと海に駆け込み、泳ぐ

【紅葉ホーム リーダー 松場翔】
は、2026年4月、田川2丁目に開園いたします。住所がまだ定まっております。田川小学校近く南東に位置しています。
子ども達が毎日、「どこで遊ぶかな」とワクワクするような保育室を目指してまいります。そして地域の子育て家庭の頼れる支援者となってまいります。

【園長 野上千春】

四季折々

新たな試み

今年でデイサービス生活屋は開設20周年になります。月日が経つのが早いと感じます。

開設当初から地域に密着しアットホームな雰囲気です。利用者さんを支えることを継続しながら、現在生活屋では身体機能の維持や生活意欲の向上、認知症状の緩和を目的とした外出活動を週に数回行っています。

花咲く時期は桜・バラ・百合・コスモスなど見に行き、気候に合わせてプラネタリウム・歴史博物館・美術館など、府内の幅広い地域へ出向きバラエティ豊かな外出レクをしています。利用者さんはもちろんのこと、家族さんや事業者さんにも「そんなことまでしているのですか?」と驚かれることもよくあります。確かに積極的に外出レクの取り組みを行っているデイサービスは生活屋だけ?と誤ってしまいますが、認知症対応型デイサービスとあって、さまざまな利用者さんと関わってきたことで、今の生活屋は柔軟な対応が出来ているんだと感じています。これまで他のデイサービスの利用が難しかった方でも、生活屋では落ち着いて過ごせるようになった例を何人も見てきました。

今後も生活屋だからこそ出来ることを大切にしながら、地域と関わりながら皆さんと楽しくやっていきたいと思ひます。

【生活屋 山本和人】



みんな揃ってピース満開!



思わず体もよく動きます

【施設長 小野真友美】

が出来なくなっていました。今年度からは季節ごとにこども園には声をかけ交流をし、また夏休みの児童養護の子どもさんにはスイカ割に花火で交流をしてきました。新しくスタートしたソレイユやシエルの子ども達とはラジオ体操カードを作り一緒に楽しみました。
お年寄りの方にも刺激となり笑顔が溢れ「今日はちびっこ来ないの」と待ちわびています。世代間交流の大切さをすごく感じ、法人内にこれだけ沢山のコミュニティがある強みも実感しています。色々な所に居場所があり、生活の中に子ども達も居るそんなケアハウスになれば良いと思ひます。

「笑顔の45分」



【デイサービス生活屋】

生野区にある当法人のこひつじ乳児保育園にて、デイサービス生活屋の利用者さんと園児の1〜2歳の子ども達とで交流会を5月から毎月1回行っています。

乳児保育園に到着すると、数名の方が「前にここに来たよね」と言われ、認知症のある方でも印象の強いことは覚えて下さっています。

自己紹介を全員で行い、歌に合わせた手遊び、ブロック遊び、七夕の飾り作り、園庭の木になった杏子の実を取る等、一緒に出来るプログラムをその日によって保育士さんが考えて下さり、約45分間ずっと笑顔で過ごすこと出来る幸せな時間になっています。

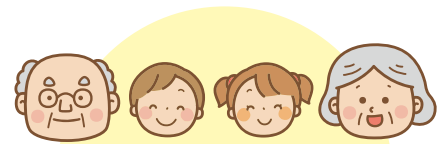
買物中、利用者さんがスーパーの中で子どもを見ると笑顔で手を振られる姿、立ち止まって話し掛けられる姿をよく目にするので、ゆっくりと子ども達と過ごせる機会がで



笑顔がこぼれる優しい時間

き、皆さん喜んでおられます。今後ずっと継続していきたいと思ひます。

【生活屋 西垣晃二】



他事業所との交流

【ケアハウスはくあい】

以前から笹飾りやクリスマスページェント等でこども園の皆とは交流をしてきていましたが、コロナで色んな交流



毎週火曜日、礼拝の後に2歳児ばんだ組のお部屋に紙芝居を読みにっています。私自身、とても楽しみにしていて、今日はなにを読もうかな...と考えながら紙芝居を選んでいきます。紙芝居舞台の扉をゆっくり開けた時の子ども達のきらきらした目、「あ、〇〇が見えたよ」など口々に言ってくれます。話を進めていくと、どんどんお話に入り

込んでくれ、声を出して参加してくれる姿や、友だちと笑い合う姿、「怖い」と目を隠す姿など、紙芝居を通して一体感が感じられとてもうれしくなります。今後も色々なお話を通して、子ども達とより繋がっていきたいと思います。また保育士さんたちも紙芝居舞台を使ってぜひ子ども達と共通体験を味わってほしいです。

【園長 早川育子】



紙芝居が大好きな子どもたち

博愛社後援会会費
 ▽個人 1口 3千円
 ▽法人 1口 1万円
 いずれも年会費で、
 期間は4月～翌年3月
 ▽郵便振替口座番号
 0092074676
 ▽口座名義
 社会福祉法人 博愛社

菜園活動



【博愛社こども園】

5歳児クラスでは、こども園の畑で様々な野菜を育てています。5月頃には、ニンジンやコカブを収穫し、自分達でピーラーを使って皮を剥いたり包丁で野菜を切ったりするなどクッキングに挑戦しました。

夏にはトマトやオクラ等の夏野菜を収穫。毎日朝夕の水やりを欠かさず、暑い日も大切に育ててきました。収穫した野菜は厨房で調理していただき、給食で味わいました。野菜が苦手な子ども「食べてみる」と一口挑戦してみる姿が見られ「トマト食べられた」と嬉しそうに教えてくれました。

畑での経験を通して野菜が育つ過程や収穫した喜びを知り、食への関心もぐんと広がっています。
 【5歳児ほし組 主担任 吉岡柚葉】



畑で採れたニンジン調理したよ



大きな玉ねぎ採れたよ

初めての お出かけイベント

【児童発達支援・放課後等デイサービス シエル】



楽しかった夏の思い出

シエル開設後、初めての夏休みを迎え、子ども達が楽しめる「お出かけイベント」を実施しました。行先は吹田市に「生きているミュージアム・ニフレル」。当日は9名の子ども達が参加し、朝は博愛の園でラジオ体操に取り組み、シエルでお弁当を食べながら出発しました。到着が近づく子ども達は期待で胸をふくらませ、館内ではワークシ

トを使いながら友だちと協力して発見や観察を楽しみました。生き物の多様な姿に驚いたり、笑い合ったりしながら学びを深める姿が見られました。移動や食事などの時間も含め、仲間と共に過ごす特別な一日となりました。これからも楽しさと学びがあふれるシエルを目指してまいります。
 【保育士 藤本雅美】



8月26日(火)の午後のひと時、特養の地域交流センターでは、心地よいベースの重低音が鳴り響き、ソプラノサックスの甘く切ないメロディーが流れ、いつになくぜいたくな時間を過ごすことができました。

ベースの芦田聡さんは「聖公会生野センター」の介護施設の管理者ですが、音大卒業の筋金入り。サックスの林満彦さんはプロ歌手のバックバンドの経験者。遊び半分で始まった二人のセッションは、17年前から続いているそうです。

生演奏会は「博愛の園」と「清心館」の2か所で行われ、入居者や他部署の職員も来場し、延べ100名を超える聴衆が聴き入っていました。

【特養施設長 川田誠】



心と体に響きます



今年度の博愛社フェスティバルは10月19日(日)10時~14時に開催します。

今年度も盛り上げるべく法人全体で準備をしております。卒業生のご紹介でキッチンカーにも来ていただけることになり、ますます盛り上がること間違いなしです。

バザー用品も不足しており、まだまだ募集しております。食品と電化製品は除き、新品の物に限ります。ご協力頂けたら幸いです。

今年度も皆さんで思い出に残るフェスティバルにしていきたいと思います。

【フェスティバル委員会 藤村真美華】

過日、大阪万博を見に行つた。一九七〇年以來の大阪万博見学である。丁度、東京の夫馬信一氏から『日本万博全史』という著書を七月に戴いた事もあり、それが動機ともなった。この本には博愛社の恩人と称せる阿波松之助のことが出てくる。夫馬氏は以前、阿波を調べに博愛社を尋ねてこられ、それ以來の知己であり、度々電話でお話してきた間柄である。

阿波は、博愛社の創設者小橋勝之助が一八九三年三月、亡くなる前日に小橋家を尋ねた時、勝之助と移転の約束がなされ、一年後博愛社は大阪阿波宅に移る。博愛社は約五一年間危機的状況を乗り越え、一八九九年に現在の地に移つた。この阿波宅への移転が無ければ、博愛社はどうなっていたかわからず、その意味で彼は博愛社の恩人であった。その後、阿波は東京に出て行くが、大阪の博愛社を支えてきたことは『博愛の園』等の機関誌や年史をみれば理解出来る。しかし大阪と東京を視野に入れた阿波の研究は進んでいない。

日本が初めて万博に参加したのは明治維新前後、二回のパリ万博であった。その万博を昭和初期に企画した人物がいた。内務大臣や東京市長を務め、関東大震災時に東京の復興に力を注いだ後藤新平である。後藤は一九二八年に日本での初の万博を構想する。夫馬氏の著書には『後藤万博』支援者も「うひとつの顔」という題で、写真入りでこのプロジェクトの支援者の一人として阿波が紹介されている。以前、阿波

に阿波は津田英学塾等の教育事業、或いは家庭学校の援助等もしている。例えば津田塾の創設時には、巖本善治や新渡戸稲造らと共に六人の社員に選ばれ「すべて梅子の仕事を理解し、最初から援助を惜しまぬ人たちであった」と評され、阿波は「定款の作製・手続きなどの労を主として」と

いう手書きの史料が残されており、これを翻刻する作業も必要である。この史料は岡田二郎編になる過去の年史において部分的に紹介されているが、ただ正確に翻刻されていない。久布白落美の『貴女は誰れ?』でも年史から引用されたのが、正確性に欠けている。阿波の大阪での事業と生活、そして東京での多岐に亘る活動、その実像が解明できることにより博愛社史研究も豊かになり、将来の博愛社へと連なるものがある。今後、博愛社や博愛社の歴史に関心ある人々たちによって多角的に研究がなされていけばと願う。

「博愛社の恩人」阿波松之助

博愛社の歴史探検 [46]

(関西学院大学名誉教授 室田保夫)

室田保夫